

タキイ品種・栽培フォローアップ

～産地開発担当者が良作のポイントを伝授～



(ピー太郎)



↑春作の定植適期苗（12cmポット第1花開花直前）。

普通ピーマンとの違い

	ピー太郎	普通ピーマン
生育適温下限	16~18°C	14~16°C
開花から収穫まで	4~6週	2~3週
果実1本の重さ	30~40g	約30g
根のタイプ	直根主体	直根+細根

耕種基準目安

耕種基準(10a当たり)	作型	元肥(kg/10a)		
		チッソ	リン酸	カリ
畝幅：150~180cm	雨よけハウストンネル	20~25	30~35	20~25
株間：50~60cm	露地	25~30	30~35	25~30
栽植密度：900~1,200株	ハウス抑制	15~20	25~30	15~20

※畝幅、株間、栽植密度、元肥設計は普通型ピーマンと同じで、特別な設定は不要。

第7回

前編のおさらい



「こどもピーマン」を作りこなす【後編】

後半の管理と収穫、

育苗



定植・移植適期

老化苗

前編の定植苗に関して補足します。「ピー太郎」の初期の根張りをよくするうえで、非常に重要なのが苗を老化させないことです。ピーマン類は育苗期間が長いため、育苗中に移植の機会が出てきますが、移植前の時点では根がガチガチに回っていると、根が窒息して傷み、移植後の根張りに支障をきたします。また、低温や高温、乾燥や過湿など一層条件の厳しい圃場定植の時に老化苗になつていると、活着が遅れます。必ず適期の写真のように、根が回りかけの時に移植や定植は行ってください。前編で春作では定植時に第1

花開花直前の苗が理想としましたが、老化苗にしないことの方を優先してください。第1花の蕾が見える前にポツトに根が回つてしまつた時は、その時点で畑の準備ができていれば定植するか、できなければより大きなサイズのポットへ移植するかどちらかにしてください。

* * *

Q

追肥の開始時期や灌水はどうしたらいいのですか？

A

中盤の草勢維持について解説します。前号でも触れましたが、「こどもピーマン」は、普通ピーマンより根の量が少なめなので、肥料や水への反応が鈍く、一度草勢を落とすと、回復により時間がかかります。そこで、早めの追肥と、普通ピーマンよりも多く灌水を行うことがポイントになります。

追肥の開始は2~3個幼果が見えた

時期が適期です。10aでは、1000本定植で、1果40gとして、1株25本収穫で1tになります。ピーク時は約3週間で1tとれます。

施肥量に換算すると収穫1tにチツソ成分5~6kgが基準ですから、ピーク時は1週間に10a当たり固形化成肥料でチツソ成分1・5~2kg、追肥の必要があります。「ピー太郎」は肉厚で尻腐れが出る心配も少なく、肥料の効きもゆっくりなので、ピーク時に限らず2~3個幼果が見えた時からこの程度の量を目安に、1週間に1回のペースで追肥を始めてください。速効性の液肥と、緩効性の粒肥の併用が理想です。

また、灌水は、収穫開始後の晴天時なら、1株当たり1日2~4ℓを目安にたっぷり行つてください。

Q 草勢が強いか弱いかの判断
A 草勢が強いか弱いかの判断

草勢が強いか弱いかの判断
基準を見ればいいのですか？

Q 草勢が強いか弱いかの判断
A 草勢判断は重要なポイントです。3点分かりやすい判断

基準を紹介します。

①雌しべの長さ
雌しべが雄しべより長いか？

◎長い=適正
◎短い=弱め



●黒あざ果
原因…日光の果皮への直射によるアン
トシアン発色。

対策①…草勢を強く保つて葉を茂らせ、

Q 黒あざ果
A 昨夏は猛暑で「黒あざ果」や「短果」が多く見られました。

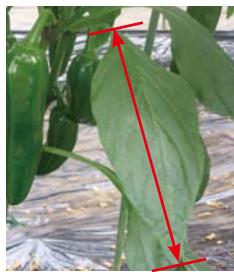
Q 黒あざ果
A 「黒あざ果」の原因は、日光の直射によるアントシアン発色です。3点分かりやすい判断

草勢判断は重要なポイントです。3点分かりやすい判断

- ①栽培初期からおとなしい場合、追肥開始時期を早める。
- ②追肥、灌水をより小まめに行う。
- ③チツソ・カリ主体の（ヨーゲン強力2号など）葉面散布剤を5~7日おきに施用。
- ④整枝は控える。
- ⑤タズ果を摘果。

③葉身の長さ
完全展開葉の長さ

◎13~15cm以上=適正
◎13~15cm未満=弱め



②開花節と生長点
距離が…

◎5cm以上=適正
◎5cm未満=弱め



果実に日陰をつくる。

対策②…ハウス・トンネル栽培の低温期では早朝からの換気を控える。

●果形の乱れ、短果

原因…肥料切れ、成り疲れ、乾燥・高温・低温による花質悪化、花粉稔性低下など。

対策…初期の株作り、適切な灌水と肥培管理、低温期の保温や夏場の遮光。



果形の乱れ、短果

Q 収穫の目安は大きさで判断するのですか？

A 「ピー太郎」の収穫基準は分かりやすく、果皮へのヒビの入り始めが収穫適期です。ヒビが入りすぎて過熟になると着果負担で樹の消耗を早め、見た目も悪く日もちは低下し商品価値が下がります。草勢維持のためにも適期収穫が必要です。

また、ヒビなしで若さりすると、普通ピーマンのような青臭さが残り、「こどもピーマン」の特長である味や機能性の向上が發揮できないので、おすすめできません。なれた生産者になれば目視でなく手触りでヒビを確認し収穫される方もおられました。

(www.takii.co.jp/)

↑防曇袋

↑出荷用シール
原版

↑店頭用
レシピ・POP

Q 皆さん売り方に悩んでおられるようですね。

A 新規の野菜ですから視覚的なPRで、特長や利用方法を伝えることが大切です。オリジナル防曇袋は有料の販売商品ですが、効果的な出荷ツールです。出荷シール原版や店頭用レシピ、ポップなどはタキイホームページの直売所販促・支援コーナー、応援ツール集からダウンロードが可能です。ご利用ください。

